

◆生育状況について

本年は、開花期前の高温により開花から満開までの期間が短く推移した。満開期以降、比較的涼しく推移したため、初期肥大はゆっくりではあるが、引き続き作業遅れの無いよう進める。

◆当面する重点作業について

1. 降雨がない場合は、定期的にかん水を行う。降雨が続く場合は、排水対策をする。特にシャインマスカットは、縮果症の発生要因となるため注意する。
2. 裂果防止、糖度食味向上、着色向上のため、大房にならないように摘粒を正確に実施し、着房数の徹底をする。※摘粒作業が間に合わなくハサミが入らなくなる場合は、予備摘粒のみ実施し、後に仕上げ摘粒を実施すると作業しやすい。
3. 棚の明るさを確保する。シャインマスカットは房が黄色くならないように副梢を利用する。
4. 果粒軟化期（縮果症危険時期）に入る前までに副梢整理を行う。（前回情報No.7参照）
5. 病害対策、予防が基本。降雨が続く場合は、薬剤散布間隔を10日以上空けないよう実施する。黒とう病、べと病が発生した場合は、被害房・葉を切除し、肥料袋等に入れ、園外へ持ち出し処分する。なお、べと病の発生源となる副梢及び遅れ花を適正に処理する。
6. クビアカスカシバ加害が見え始めてくる時期。7月上中旬～8月初旬までは、主枝・主幹部を定期的に観察し、虫糞が出ている場合は捕殺に努める。お盆過ぎまで見落としていると、加害部から先端が枯死する可能性がある。

◆品質向上・苦土欠乏対策について

品質向上と欠乏症として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 土壌施用：水で分解しやすく流れやすいので、降雨後の施用とする。葉の色が薄くなっている場合は、下記の施肥時期を待たずに実施する。

施肥時期	肥料名	施肥量
7月上中旬	硫マグ25	2袋/10a当り

2. 葉面散布：袋掛け後の第10回目に加用又は単用散布する。

【品質向上対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	水1000l当り調合量
モーニングシャイン	1,000～500倍	100～200ml
オルガミン	1,000～2,000倍	100～50ml
ケルパック66	3,000倍	33g
友果	500～1,000倍	200～100g

+

【苦土欠乏対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	水1000l当り調合量
グリーントップ70	500倍	200g
リーフマグ	1,000倍	100g

◆種あり巨峰弱樹勢樹対策について（袋掛け後）

樹勢が弱く、軸が黄変する樹に実施する。

1. 散布方法：7月上旬から5～7日間隔で2～3回実施。
ボルドー液混用可能だが、高温時の散布は葉やけが出やすいので注意する。
2. 使用資材：下記のいずれか

資材名	使用倍率	水100ℓ当り調合量
アミノメリット青	500倍	200g
尿素	500倍	200g

◆特別薬剤散布について

1. 散布時期：袋かけが遅れ、第9回薬剤散布より、10日以上間隔が空く場合は実施する。

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：250ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ライメイフロアブル	3,000倍	33mℓ	14日	べと病
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50mℓ	前日	晩腐病・さび病・灰色かび病

3. 散布上の留意事項

- 1) 袋かけが終了している場合は、第10回散布を実施する。
- 2) 果粒汚れ、溶脱に注意する。薬斑が残ることがあるので、散布が遅れないようにする。
- 3) 晩腐病・サビ病発生が心配される場合、又は冷蔵シャインマスカットを出荷する場合は必ず散布する。
- 4) スリップス発生が心配される園は、ミネクトエクストラSC10,000倍（水100ℓ当り10mℓ）を加用散布する。
- 5) ライメイフロアブルに代えてランマンフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100mℓ）を使用してもよい。

◆第10回薬剤散布について

1. 散布時期：袋掛け後 実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：350ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
㊞ パダンSG水溶剤	1,500倍	66g	14日	スカシバ類
モベントフロアブル	2,000倍	50mℓ	7日	スリップス類・カイガラムシ類
ムッシュボルドーDF	500倍	200g	—	べと病・さび病
固着性展着剤K. Kステッカー	3,000倍	33mℓ	—	—

3. 散布上の留意事項

- 1) 袋かけ後、出来るだけ速やかに実施する。べと病やスリップス対策のため、棚上にも散布する。
品種・園地により、袋かけ終了が著しく異なる場合は、分けて散布を検討する。
- 2) クビアカスカシバ・スカシバ類対策として、主幹・主枝にしっかりとたつぷり掛ける。
- 3) カイガラムシ類発生園は、散布の際、主幹・主枝・穂軸・特に芽座にしっかりとかける。
なお、ICボルドー66D並びに4-4式ボルドー液との混用及び近接散布（前後1週間）はできない。
- 4) 固着性展着剤K. Kステッカーに代えて、固着性展着剤アビオンE1,500倍（水100ℓ当り66mℓ）を使用してもよい。ただし、最初に加用する。
- 5) クビアカスカシバの虫糞が出始めるので、被害部にロビンフット（収穫前日まで・5回以内）を使用する。ノズルが詰まらないよう、噴射しながら食入孔にノズルを差し込む。